

検査で注視すべき クレアチニン値

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医
医療法人財団百葉の会 銀座医院
院長補佐・抗加齢センター長

糖尿病が腎臓病の根本原因ではなかったNさんのケース

患者氏名	N・T 様	年齢	58歳	性別	男性	現病歴	糖尿病 慢性腎臓病
------	-------	----	-----	----	----	-----	-----------

慢性腎臓病は、最悪の場合、人工透析を余儀なくされたり、命が危ぶまれたりする病気です。初期では自覚症状がないため、血液検査や尿検査などの数値で見極めることが重要です。

なかでも重視されるのが腎臓の老廃物の排泄能力を示すクレアチニンの値です。Nさんの場合、この値に問題があったものの他の検査数値がそれほど悪くなく、かつたため、以前の病院では積極的な治療は行っていないままでした。慢性腎臓病には、糖尿病を根本原因とする

もの、もともと腎臓に障害があるものなど、いくつかのパターンがあります。Nさんは糖尿病の持病があったので前者と判断され、血糖コントロールの方に重きを置いて治療されたのかもしれない。

しかし昨年、私が診察した際には、クレアチニン値がかなり悪く慢性腎臓病のリスクが高まっていました。さらに、今年に入ってからは一気に悪化し、人工透析も視野に入れなければならぬ状態になったのです。おそらくNさんは、糖

尿病の発症以前から腎臓に問題を抱えていたと思われる。そこで急遽、血糖値のコントロールはもとより、たんぱく質と塩分の制限に取り組んでもらうようご指導しました。

慣れない食事制限は大変だと察しますが、まずは2か月後の検査結果に期待することにしてしましよう。

久保明先生の新刊のご案内

『不安と情報過多から生まれる
新型コロナ「W疲労」の対処法』
(晶文社)



新型コロナ感染症による「メンタル後遺症」初の解説書として話題。アフターコロナを生きるための必読書です。

この本をプレゼントします。
詳しくは43ページをご覧ください。

